

資料 4

ふるさと銀河線及び江差線(枯内・江差間)の廃止に伴う代替バスへの転換(概要)

1 ふるさと銀河線バス転換の概要

平成元年6月、JR池北線の廃止に伴い、北海道ちほく高原鉄道(ふるさと銀河線)開業。その後、過疎化の進行やモータリゼーション化による利用者の減のほか、低金利による基金運用益の大幅な減少により、厳しい経営状況となったことから、平成18年4月に廃止し、バス転換となった。

(1) 輸送状況 (単位：千人)

	平成17年度 (鉄道)	平成23年度 H23.10-H24.9	平成24年度 H24.10-H25.9	平成25年度 H25.10-H26.9
輸送人員	468	496	515	513

(2) 初期投資 ※基金を充当 (単位：百万円)

項目	内容	金額
○ バス車両購入に係る経費	・北見バス8両、十勝バス7両	432
○ 定期券発行窓口開設等経費	・定期券販売窓口開設(6箇所)、停留所設置(46箇所)、ソフト改修、運転手研修等	48
○ バス車庫建設に係る経費	・北見、陸別	133
計		613

(3) 代替バスのダイヤについて

区間	ふるさと銀河線	代替バス(カッコ内は土日祝)	
		平成18年度	平成26年度
池田～足寄	8本	9本(7本)	9本(7本)
足寄～陸別	7本	9本(7本)	9本(7本)
陸別～置戸	6本	7本(7本)	7本(6本)
置戸 北見	置戸→北見	12本	11本(11本)
	北見→置戸	11本	12本(12本)
			7本(6本)

(4) 運営補助の推移 (単位：百万円)

H17 (鉄道)	区分	H23 H23.10-H24.9	H24 H24.10-H25.9	H25 H25.10-H26.9
欠損補てん額 300	道費補助	64	62	68
	国費補助	64	62	68
	その他負担	5	9	25
	計	133	133	161

(5) 代替バスの運賃について

区間	ふるさと銀河線運賃(廃止時)			現行バス運賃(十勝バス・北見バス)		
	普通運賃	通学定期	通勤定期	普通運賃	通学定期	通勤定期
陸別～池田	1,960円	30,050円	59,080円	1,850円	37,670円	77,700円
足寄～帯広	1,550円	26,040円	49,470円	1,470円	34,020円	61,740円
置戸～北見	770円	12,970円	25,280円	1,120円	34,560円	50,400円
陸別～北見	1,510円	24,190円	47,980円	1,550円	39,720円	69,750円

※備考

- ・通学定期、通勤定期は1か月の金額である。

2 江差線（木古内・江差間）バス転換の概要

旧江差線のうち、五稜郭・木古内間は三セク鉄道会社による運行となったが、木古内・江差間については、平成24年9月にR北海道から沿線町に対し、鉄道事業の廃止の提案があった。

その後の協議を経て、平成25年3月には沿線町がJR北海道の地元支援策を了承。平成26年5月に廃止となり、バス転換となった。

(1) 代替バスの運行概要

- ・運行区間：木古内駅前～江差ターミナル～市街地、高校、病院等 H26.10以降拡大
- ・バス停：22か所 JR江差線よりも12か所の増
- ・運行本数：12本（上り6本、下り6本） JR江差線と同様
- ・所要時分：83分 JR江差線よりも12～20分の増

始発を除く上り5本（木古内～江差間）及び下り6本（江差～木古内間）は、それぞれ、函館発及び函館行きの列車との接続が可能なバスダイヤとなっている。

(2) JR北海道の主な支援内容

①代替バスの運行に対する支援

9億円を交付（平成26年度～平成28年度の3年間（3億円／年））。

- ・バス運行経費負担額の18年間分
（JR木古内駅～江差高校の区間、6往復／日）
- ・初期投資等の費用

車両(当初購入：小型バス3台、更新：1回)、待合所、停留所

②定期券利用者に対する支援

鉄道定期運賃とバス定期運賃の差額（通勤は1年、通学は在学期間）を助成。

③鉄道用地等の処理

鉄道用地及び設備等の処理は、3町とJR北海道との間で個別に協議。

(3) 代替バスの運賃

	旧JR江差線（木古内・江差間）			代替バス（函館バス）		
	普通運賃	通学定期	通勤定期	普通運賃	通学定期	通勤定期
江差～木古内	900円	12,130円	28,060円	1,120円	30,340円	49,320円

※備考

- ・通学定期、通勤定期は1か月の金額である。